

【三川町】 校務DX計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が校務DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. 校務系・学習系ネットワークの整備・改善

現在は、学習系と校務系のネットワークを分離しており、校務系のネットワークでのみ、校務支援システム等の利用を可能としている。分離していることで一定のセキュリティは担保できているが、ネットワークの切替に要する時間や、学習系と校務系のデータ連携が不十分であることなどが課題である。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言にある、ゼロトラストの考えに基づくネットワーク統合について、検討が必要である。

2. クラウドサービスの活用

児童生徒の出欠連絡は電話による連絡を主としている。今後は学校の実情やニーズを踏まえ、教職員の電話対応の負担軽減や保護者の利便性向上の観点から、出欠連絡だけでなく、学校から保護者への連絡も含め、クラウドサービスを用いた連絡体制の整備を検討していく。

また、各校のデータファイルはローカルに設置されたサーバー等で共有されており、校務系ネットワークの整備された範囲でしか利用することができない。クラウドサービスを活用し、データファイルへのアクセスの利便性を高め、多様な働き方を推進するとともに、データ消失などのリスクの軽減できる環境の構築を検討する。

3. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成AIの活用に向けた検討を行う。

なお、現状においては、教職員のICT活用能力に個人差があり、上手く活用できていないケースも散見されることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、個別指導やICT研修の実施などの対応についても学校と連携を図りながら検討する。

4. FAX、押印の廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害して

いることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて継続的な見直しを行っていく。